

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173600129), 法人名 (社会福祉法人富門華会), 事業所名 (安平町認知症高齢者グループホーム「さかえ」), 所在地 (勇払郡安平町早来栄町133-65), 自己評価作成日 (平成26年11月18日), 評価結果市町村受理日 (平成27年1月9日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者の人権と尊厳を守り、個々の生活リズムを尊重しながら「ゆっくり・のんびり・楽しく」生活する中で認知症状が緩和されるようなサービスを提供し、温もりと安らぎのある人生をサポートします」という基本理念の下、職員それぞれが個性を發揮して明るく元気にそして専門職としての意識をしっかりと持って介護しています

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0193600129-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年12月5日)

安平町認知症高齢者グループホーム「さかえ」は、社会福祉法人富門華会が安平町の指定管理者制度の指定を受けて管理運営を行い、町の代表的な老人福祉施設として大きく貢献している事業所である。制度上、運営については町の議会の承認決定が必要とされるため、役場との連携は大きく、利用者側にとっては、安心して質の高いサービス等を受けることができる。開設12年目を迎えた当事業所は、平屋建ての建物で、同一法人の関連施設と共に自然深い山林に囲まれた地域に位置しており、利用者は時折山から下りてくる野生動物の姿を楽しんだり、畑で花づくりをしたりして「のんびり・ゆっくり・楽しく」過ごしている。職員は利用者一人ひとりの力を信じて、見守りを中心とした生活支援を行なっている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に「地域密着」という言葉は入っていないが、地域の行事への参加や施設行事への地域住民の参加も呼びかけ、地域の一員であるということを認識している	住み慣れた地域での生活継続の中で「ゆっくり・のんびり・楽しく」の理念を基本に、職員全員で理解し、業務の中で実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あきまつりなどを地域に開放しているが、日常的な交流は挨拶程度である	町内会へ加入し、地域及び施設双方の行事に交流を持っている。特に冬は除雪等で地域へ貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近具体的な活動は行っていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場職員や消防職員などの参加もあり、ホーム内のことだけでなく、地域の情報交換の場としても活用されている	運営推進会議は定期的開催し、実践の取り組みや報告等を行い、参加者から意見を受けて、サービスの資質向上に積極的に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の指定管理施設であり、問題はない	5年毎に指定管理の更新があり、適切な情報や指導助言を受け、町を代表する老人福祉施設として、行政と密接な協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になることのない様に個々のケースにより検討するようにしている。玄関の施錠は夜間のみ	身体拘束や抑制については、日々職員間で話し合い理解を深めており、危険な状況と判断した時は家族と話し合い、センサーマット等の使用を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員の報告などにより研鑽している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人の施設実習を受け入れている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時のみならず、随時必要な場合には話し合いを行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を作ってはいるが家族などからの意見や要望を聞きだすことはあまり出ていない	行事のお知らせ等はハガキで行っており、他に機関紙「さかえ」便り等色々な場面で家族の意見を求めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は会議などを通して意見の交換を行っているが、運営者（施設長を含む）とは直接話しをする機会が少なく、管理者が職員の意見や考え方を伝えている	職員と管理者が常に話し合いを行っており、職員会議の中でも対話しやすい雰囲気を作り出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや職員の向上心への対応は出来ているが、給与や労働時間などは整備できていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年1回以上の外部研修に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は北海道グループホーム協会のブロック理事を務めており、他施設との交流の機会はある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人調査の様式を作成し、それにより本人把握に努めている					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込みの段階からケアマネなどを通して全般的な相談業務を行っている					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネとの連携を密にして対応している					
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であるという認識が出来ているが、介護する側と介護される側と言う関係を認識するような場面もある					
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの立場で家族介護を考えがちになる					
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や床屋などは継続できるように支援している	入居者全員が地域からの利用者であり、地域の人たちや家族との関係が途切れないよう支援している。				
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	狭い空間の中での生活なので人間関係が複雑にならぬよう配慮している					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム側から意識的に連絡を取ることはないが、退所した家族からの連絡や相談には応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めているが、困難なケースの場合には個別に職員間で検討している	発した言葉をそのまま受け止めるだけではなく、表情や動作を含めて職員全員で検討し、利用者の意向に理解を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前アセスメントを行い生活歴などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌の書式や記入方を改善し総合的に把握できるよう工夫している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を記入しやすい場所(日誌の中)にし介護計画と現状のずれをわかりやすく対比しやすいようにしている	介護計画の達成を日々確認しながら適切な実践に取り組んでいる。	介護計画の達成を日々のケアで確認しており、より有効に記録が活用できるように、モニタリング表等の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェックポイントを随時確認しながら記録に記入し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	平成23年1月よりショートステイを実施		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用している事はない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全ての入居者さんがそれまでのかかりつけ医を継続している	入居後も従来のかかりつけ医を継続し、家族の協力を得ながら受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師や訪問看護師はいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域内に入院可能な医療機関はなく、入院した場合の情報交換は充分とはいえない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携が出来ていないのが現状であり、ターミナルケアの実施は現状では困難と認識している	終末期のあり方については、医療との連携を推し量りながら慎重に検討しているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の講習を3年ごとにホーム内で実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時や災害時の避難訓練を実施し、今年9月には実際に避難も経験している	H26年9月に土砂災害警報が発令され実際に避難を体験したが、日々の訓練の成果で利用者は落ち着いて行動できていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気や職員としての垣根を持たないようにとの考え方の延長で時折行き過ぎた対応になることもある	呼称をはじめ、言葉遣い等は人格や個性の尊厳に配慮し、職員会議でも常に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力や表現力の変容を職員間で確認しながら入居者さんの意向や希望を汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの様子を確認しながら日課表に縛られることなく柔軟に対応しているが、職員の価値観で支援してしまっていることもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感も考慮しながら配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人によりできることや好きなことを行ってもらっている	食材は地域の商店を交互に利用しながら、利用者の好みを考慮して献立を作り、職員の同席で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食チェックや水分摂取量を記録し、体重を定期的の計測し確認している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後ではなく起床時と就寝時にケアしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁パンツ・紙パンツ・紙パットの使用を入居者さんの状態を見ながら、自尊心と羞恥心を考慮して検討している	利用者の排泄パターンを把握し、個人のペースに合わせて適度な声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認と、医師と相談しながらの本人にあった便秘薬の服用を考えている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回(火木土)の入浴日の決められた時間内で本人の希望に添うように対応している	週3回の入浴を行っており、一人ひとりに合った入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態や生活習慣に考慮して配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を中心に薬剤の変更や追加などがあった場合その都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や力を考慮した役割の設定や気晴らしを設定している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	原則的には希望に添うようにしているが、天候・健康状態・職員数などにより、直ぐには対応できていないことも多い	利用者の希望を優先すると外出が少なくなりがちだが、天候・健康・職員数等により意図的に外出の機会を作って支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない入居者さんの小遣いはホームで管理。自己管理できる人についても間接的な管理は必要であり、また、歩いていける距離には店もなく本人が使う機会も限られている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に規制はしておらず、希望があったときには速やかに対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さんの個性や相性を考慮して空間を設定し、安心して過ごせるように配慮している	採光に優れた明るく広い食堂やホール等の共有空間には、利用者の写真や手作りの作品が多く展示され、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に一人になれるようなスペースはない		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面に配慮しながら、馴染みの物を使用するように家族にも協力してもらっている	自宅で使い慣れたタンスなどの家具の持ち込みや写真などを飾り、居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状況に合わせて居室やトイレ、食事の席などを理解してもらえよう配慮している		